

やさしい日本語

令和6年4月、住民基本台帳に基づく西脇市居住の外国人は700人余りです。そこで今回は、私たちの会話に欠かせない「日本語」、とりわけ「やさしい日本語」について考えてみます。

平成7年の阪神淡路大震災が起こった際、ライフラインなどに関する情報が日本語と英語のみだったために、多くの外国人に必要な情報が伝わらない事態が起きました。それを機に、災害時の外国人への情報提供手段として、「やさしい日本語」が誕生したそうです。例えば、次の文を読み比べてみると、Bの「やさしい日本語」の伝わりやすさがよく分かります。

- Ⓐ容器を持参の上、北公園にご参集ください
- Ⓑ入れるものを持って、北公園に来てください
- Ⓒもちろんこのやさしい日本語は、災害時だけでなく、平時においても大切です。

西脇市役所のインターネットでは、必要な情報を「やさしい日本語」で読むことができます。

「やさしい日本語」はこちらから▶



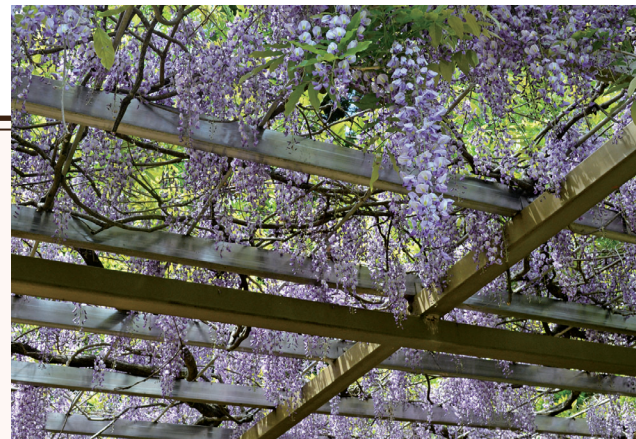
また、そこでも紹介しているNHKのNEWS WEB EASYというインターネットでは、複数の記事が「やさしい日本語」に書き直されており、自動音声による読み上げ機能もあります。

「やさしい日本語」のポイントは①一文が短い、②主語がある、③敬語がない、④受け身がない、⑤分りにくい語がないなどです。この文章ももっと「やさしい日本語」が使えるはずですが、完璧とはいかずとも、私たちが「やさしい日本語」を使おうとする事が、異なる文化に背景を持つ人たちの共生につながっていくことは確かであると思います。

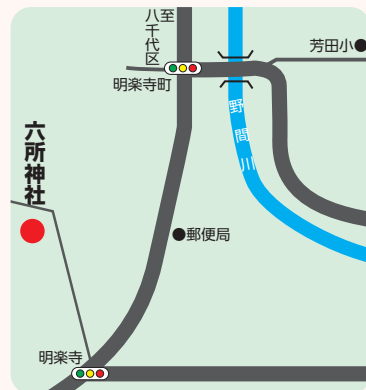
【参考文献】「やさしい日本語」表現辞典 庵功雄／編著（丸善出版）



フジの花房



西脇市指定文化財 六所神社のフジ



明楽寺町にある六所神社の境内には、根回り4・5メートル、目通し周囲2・1メートルのフジの太木があります。樹齢は300年以上と推定されており兵庫県内でも有数のフジの古木と言われ、西脇市の指定文化財になっています。地上約5メートル付近で、大きく2本に枝が分かれており、近くのイチヨウケヤキの枝を支柱として40メートル以上伸びています。平成17年度に藤棚が設置されたから、フジの先端は棚に下ろされ、地元の方によりせん定や保存活動が行われています。5月ごろの見頃の時期には、約40センチの花房を付けます。

六所神社のフジ（明楽寺町）

ふるさとの魅力再発見ーにしわき歴史探訪

▼問合せ 郷土資料館（☎235992）

市長からの手紙

ー西脇を元気に!!ー

124



西脇市長 片山象三

まちなかの活性化にむけて

5年前、市役所庁舎の移転が決まった際、市役所の新庁舎の周辺となる「中心市街地をもう一度元気にできないか、西脇らしいイベントを開催できないか」と、市民有志が立ち上がり、播州織の生地マルシェ「播州織産地博覧会」を開催。1回目の博覧会では、約400メートルの会場に5千人もの来場者があり、急遽、警察が交通整理に出勤するほどにぎわいました。中心市街地にある空き店舗や空き地を利用して生産者か



播州織の生地を求め、多くの人でにぎわう「播州織産地博覧会」

ら直接生地が購入できる貴重な機会として、年々市内外から多くの来場者が来られるようになり、今では市の一大イベントに成長。市民有志による取り組みから始まり、行政・民間事業者・市民を巻き込み地場産業「播州織」を後世に伝える事業展開が評価され、昨年11月には（公財）日本観光振興協会から「産業観光まちづくり大賞」を、今年2月には（一財）地域活性化センターから「ふるさとイベント大賞」を受賞しました。これまで、劇団四季の衣装担当にも来ていただいたことでもあります。今年には有名デザイナーが来られるお話しも浮上。当初は、市役所の移転までを目標として開催されていましたが、昨年は約8千人もの来場者があり、まちなかのにぎわいにもつながっています。今後は、大阪・関西万博をはじめ、地域の多様な資源を巻き込んだ「産地博覧会」になることを期待しています。

みんなでまちづくりー市民の皆さんのまちづくり活動ー

「みんなが住みたい暮らしたい夢があふれる比也野里」

比延地区自治協議会の取り組み

比延地区自治協議会は令和5年度に第三期比延地区まちづくり計画を策定しました。この計画は、地域住民による計8回の意見交換会を踏まえ、「比延地区の将来を見通したまちづくり計画」として策定されました。



「みんなが住みたい暮らしたい夢があふれる比也野里」を合言葉に、高齢者の暮らし支援や空き家の活用など、地域の将来像に向けて今後重点的に取り組む内容を定めています。



今後も比延地区のさまざまな資源を生かし、持続可能なまちづくりに向けて取り組みます。詳しくは市ホームページをご覧ください。

市ホームページ▶



西脇の自然 602

ハナニガナ

きく科



漢字は「花苦菜」。日当たりの良い田のあぜ、草地や路傍で見られます。よく似た花にニガナがあります。どちらもかわいらしい花ですが、ニガナの花弁は5～7枚、ハナニガナは8～12枚で華やかですが、ニガナやハナニガナはタンポポと同じ集合花で、花弁に見えるのは舌状花というものです。ハナニガナは8～12個の花が集まって一つの花に見えますが、見ていたら一つの花としか思えませんね。

春の野には、タンポポやヘビイチゴ、ウマノアシガタ、コウゾリナ、カラシナ、カタバミ、オニタビラコなどなど、黄色い花を咲かせる植物がいっぱいあって楽しみです。

【西脇市動植物生態調査研究グループ】